

未定稿

平成 16 年度食品安全モニター課題報告
「食品安全委員会のこれまでの取組等について」の結果（暫定集計版）
（平成 17 年 1 月実施）

1. 調査目的

これまでの各種取組等に対して、食品安全委員会の取組に一定の知識を有する食品安全モニターがどのような認識を持っているかを把握し、食品安全委員会の今後の取組に際しての参考とするため、

① 食品安全行政全般について

（信頼感の変化とその理由、リスク分析手法の基本的な枠組についての理解の浸透状況）

② 食品安全委員会のリスク評価を中心とした取組について

（委員会の運営全般の透明性、リスク評価の科学的かつ中立・公正性、BSE 問題に対する取組、自らの判断で行う評価対象案件の選定方法等、参考になった情報など）

③ 食品安全委員会の取り組むリスクコミュニケーションについて

（リスクコミュニケーションへの取組と効果、BSE 対策についての意見交換会開催の効果、意見交換会への参加による理解度の変化など）

の 3 項目について調査を実施した。

2. 実施期間 平成 17 年 1 月 20 日～2 月 10 日

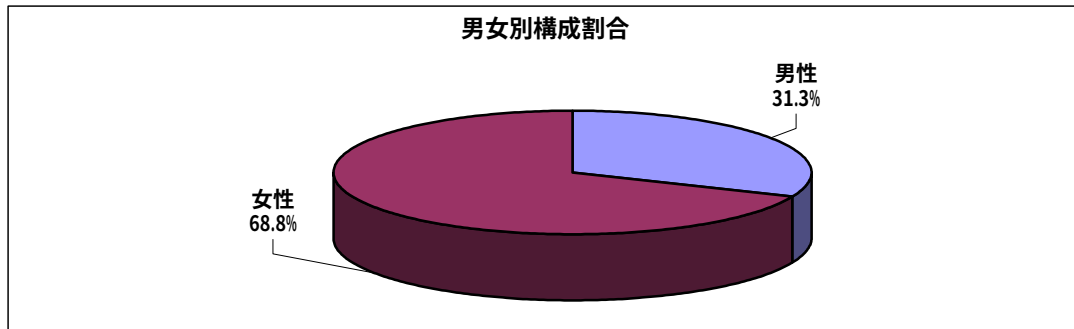
3. 対 象 食品安全モニター 466 名 （うち、162 名は平成 15 年度から継続）
有効回答数

このうち、本「暫定集計版」では、2 月 2 日までに回収された報告分（回答数：368）のみを集計して取りまとめたものである。

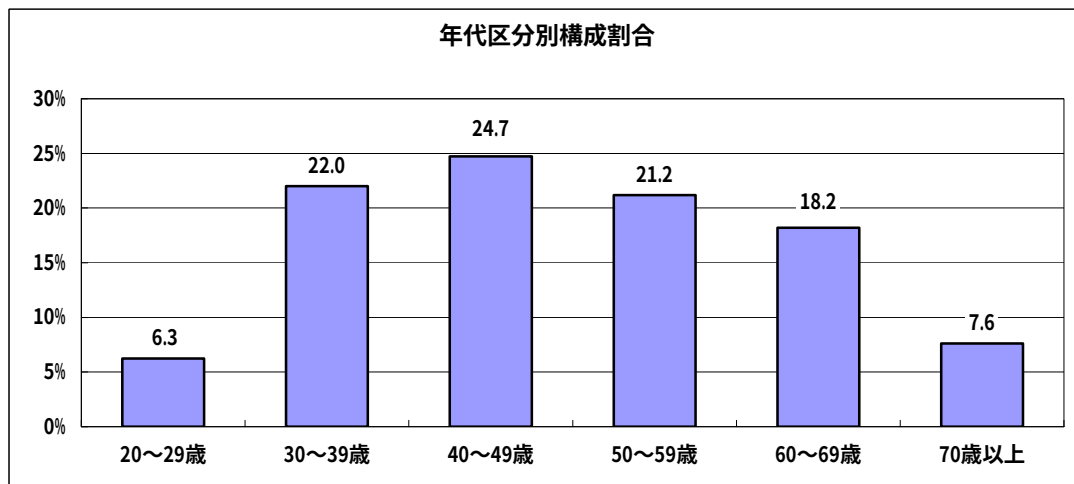
なお、最終集計値については現在とりまとめを行っているところである。

(参考) 回答者数 368 名の内訳

1) 男女別：男性 115 人 女性 253 人

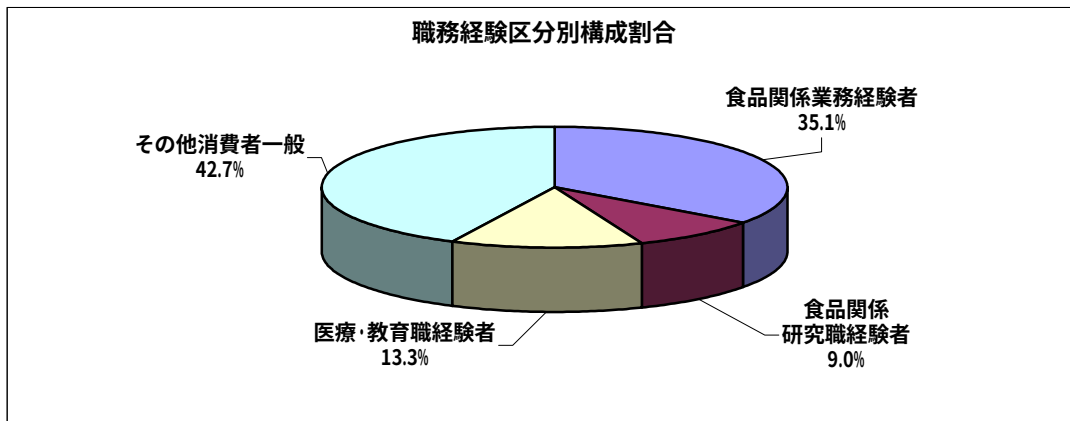


2) 年代区分別：20～29 歳 23 人 30～39 歳 81 人 40～49 歳 91 人
50～59 歳 78 人 60～69 歳 67 人 70 歳以上 28 人

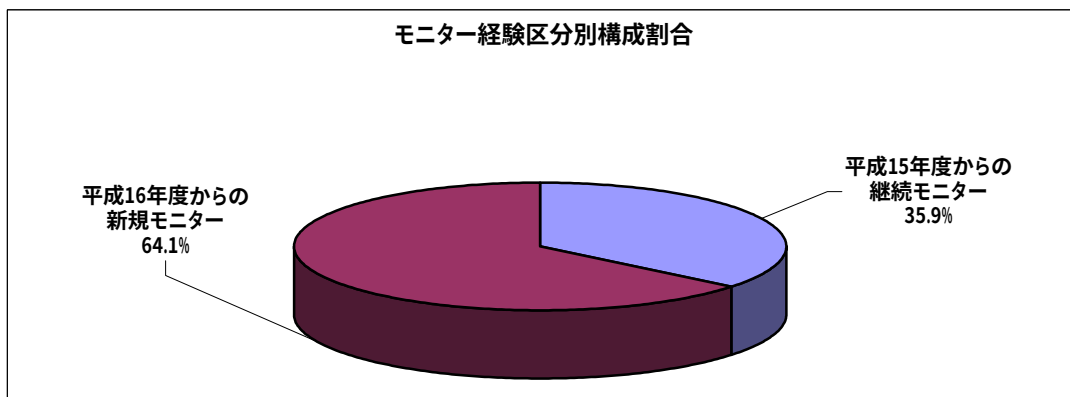


3) 職務経験区分別：

食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業（飲食物調理従事者、会社・団体等役員などを含む）に就いた経験を5年以上有している方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	129 人
食品関係研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関（民間の試験研究機関を含む）、大学等で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	33 人
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療、教育に関する職業（医師、獣医師、薬剤師、看護師、小中高校教師等）に就いた経験を5年以上有している方	49 人
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	157 人



- 4) モニター継続区分別：**平成 15 年度から、引き続き食品安全モニターに依頼された方
（以下、「15 年度からの継続モニター」という） 132 人
平成 16 年度、新たに食品安全モニターに依頼された方
（以下、「16 年度からの新規モニター」という） 236 人

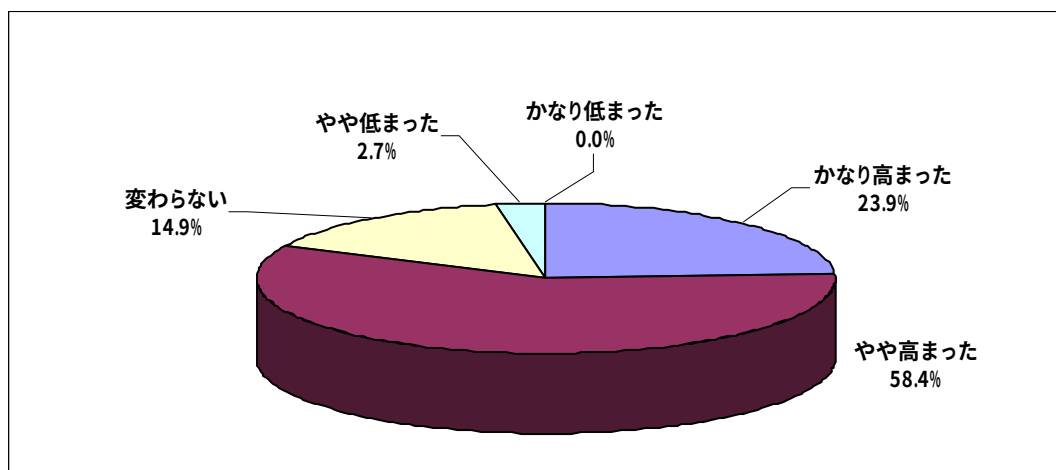


第1 食品安全行政全般について

1-1 食品安全基本法施行以降の食品安全行政全般に対する信頼感の変化

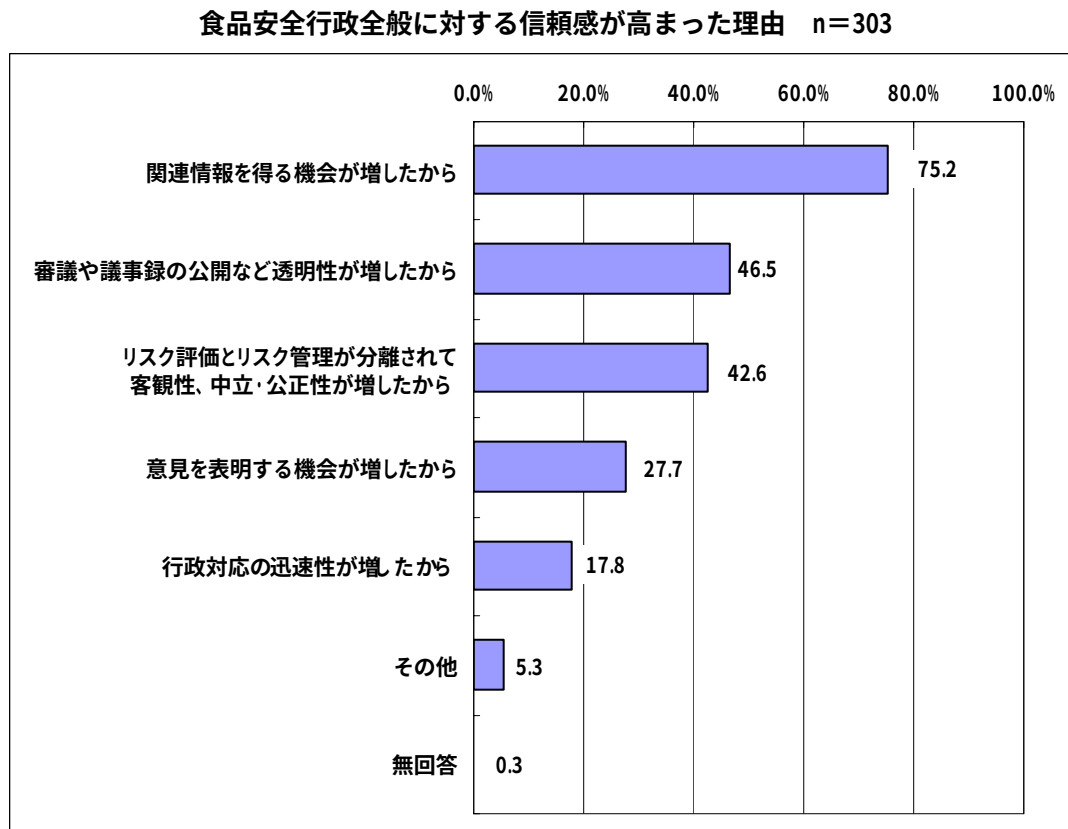
問1 平成15年7月に食品安全基本法が施行されて以降、食品安全委員会や厚生労働省、農林水産省等の取組など、食品安全行政全般に対するあなたの信頼感は、以前と比べてどのように変化しましたか。(1つ選択)

食品安全基本法施行以降の食品安全行政全般に対する信頼感の変化 n=368



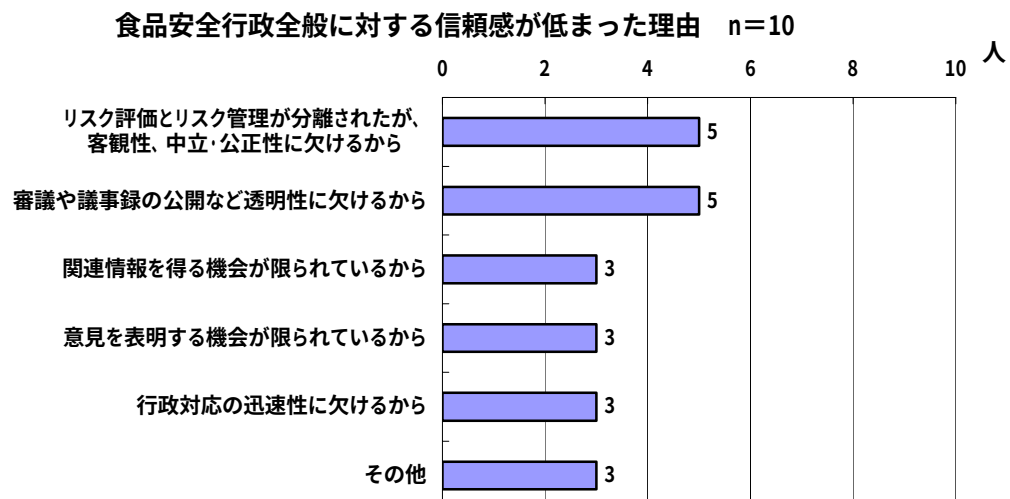
1-2 食品安全行政全般に対する信頼感が高まった理由

問2 【問1で「かなり高まった」または「やや高まった」を選択した方のみ回答 (回答対象者数=303 人)】
信頼感が高まった理由を選んでください。(複数回答可)



1-3 食品安全行政全般に対する信頼感が低まった理由

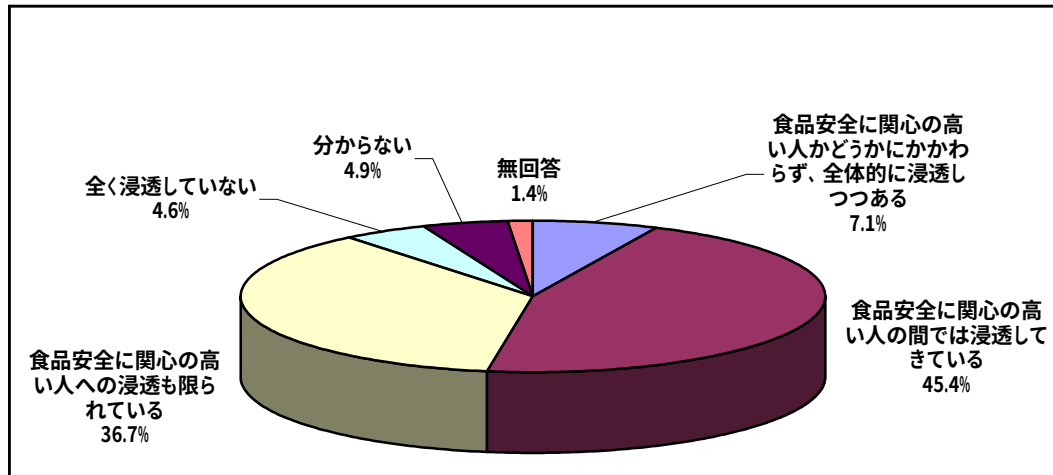
問3 【問1で「やや低まった」または「かなり低まった」を選択した方のみ回答 (回答対象者数=10 人)】
信頼感が低まった理由を選んでください。(複数回答可)



2 リスク分析手法の基本的な枠組についての理解の浸透状況

問4 食品安全委員会による科学的な食品健康影響評価(リスク評価)の結果に基づき、厚生労働省や農林水産省によって行政的対応(リスク管理)が講じられるという役割分担など、リスク分析手法の基本的な枠組について、あなたの周りではどの程度理解が浸透してきていると思いますか。(1つ選択)

リスク分析手法の基本的な枠組についての理解の浸透状況 n=368

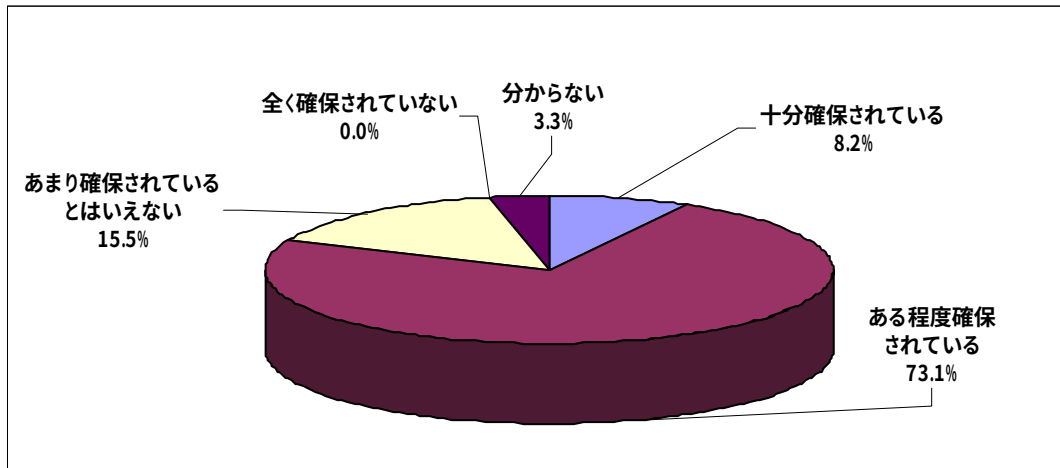


第2 食品安全委員会のリスク評価を中心とした取組について

3 食品安全委員会の運営全般についての透明性

問5 あなたは、委員会や各専門調査会の審議過程など食品安全委員会の運営全般について、その透明性が確保されていると思いますか。(1つ選択)

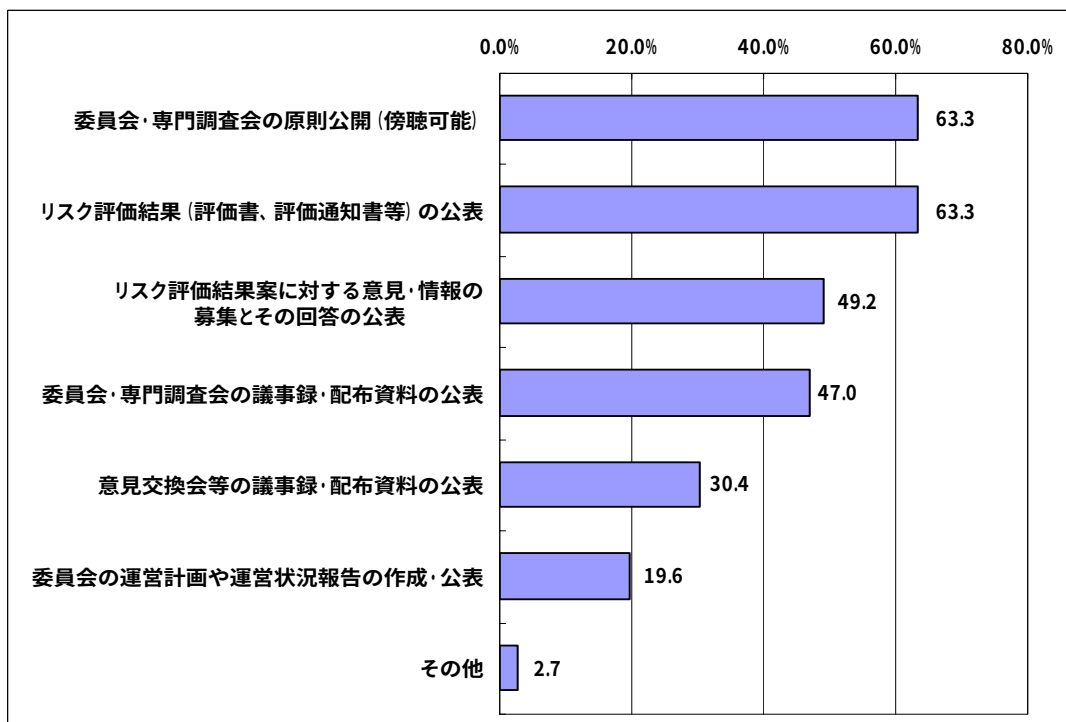
食品安全委員会の運営全般についての透明性 n=368



4 透明性を確保するために重要と考える取組

問6 食品安全委員会の運営全般に関し、その透明性を確保するための取組として、特にあなたが重要と考えるものを選んでください。(3つ以内の選択)

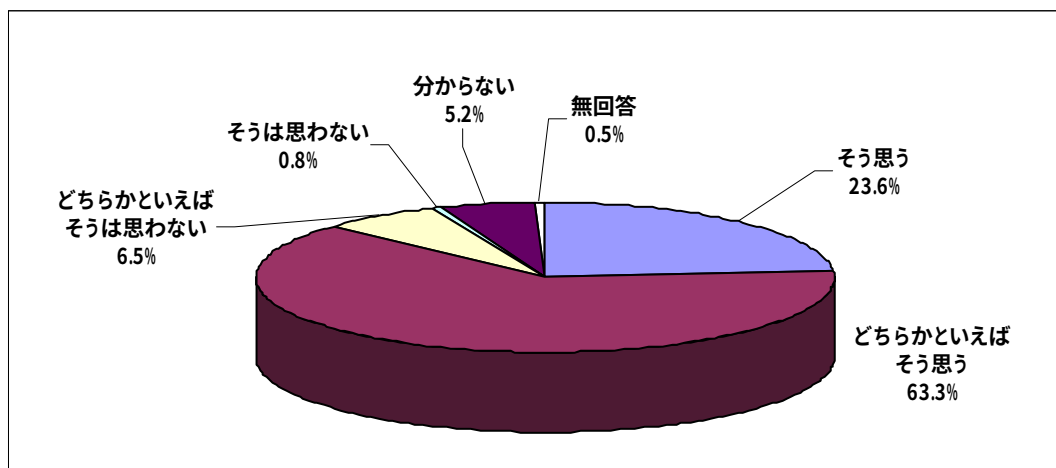
食品安全委員会の運営全般についての透明性を確保するために重要と考える取組 n=368



5-1 リスク評価の過程やその結論についての科学的かつ中立・公正性

問7 食品安全委員会がこれまで実施した食品健康影響評価（リスク評価）の過程やその結論について、科学的かつ中立公正なものになっていると思いますか。（1つ選択）

リスク評価の過程やその結論についての科学的かつ中立・公正性 n=368



5-2 特に科学的かつ中立公正なものになっていないと思われた点

問8 【問7で「どちらかといえばそうは思わない」または「そうは思わない」を選択した方のみ回答 (回答対象者数＝27人)】
あなたが、特に、科学的かつ中立公正なものになっていないと思われた点があれば、具体的に記入してください。(自由記述)

リスク評価の過程やその結論が、特に科学的かつ中立公正なものになっていないと思われた点 n=24

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務経験者	男性	40～49 歳	・発ガン性が確認され使用禁止になった添加物もあるが、その発ガン性は大きいものではないこと。その程度のものを禁止した場合、今後もそのような添加物が出てくることは容易に考えられるが、厚生労働省から禁止したらどうかと言われると、すんなり受け入れてしまった。厚生労働省や農林水産省の言いなりであることは明らかである。
	男性	50～59 歳	・科学的な立場を重要視するあまり消費者の立場に欠けている。製造者へは現状でよいと思うが、消費者へは「安全」だけでなく「安心」が必要。委員会の評価には「消費者への「心」」が欠けているようにみえる。
	男性	60～69 歳	・科学的な中立的な立場で検討しても、科学的に解明されないものを安全とみなし検討することに異議あり。安全性を確認されないことには結論を出すべきではない。
		70 歳以上	・一般消費者に対して説明して浸透させるには段差が感じられる。
	女性	40～49 歳	・例えば BSE 問題の中で、政治レベルの話になると食品安全委員会の意見が最後まで押し通せない状況があるように思う点。 ・既存添加物であったものを突然中止にするなどやり過ぎではないか。問い合わせへの体制を整えないまま実施するなど中立公正とはいえないと思う。コミュニケーション不足。
		50～59 歳	・今の状況は理解できないところが多く、改善されてもまた違う部分での弱点が出てきて、信頼・信用がどこまでできるのかと思わないではいられません。 ・米国産牛肉輸入解禁にまつわるリスク評価と政治的影響。 ・BSE の中間とりまとめの内容が省の意見で歪められたのではないかと疑惑がもたれた点。真意は未だ不明瞭のまま、曇り状態で、私の中では整理できていません。
食品関係研究職経験者	男性	60～69 歳	・BSE 問題について、科学的に解明されていない点を明らかにし、その解明に至るまでに行うべき検査内容を次第の策として明示すべきだ。(この考え方の推進が消費者の安心を確保する政策と考える。)
		70 歳以上	・科学的、かつ中立公正かもしれないが、一般人が知るマスコミを通じての情報は多く政治的な配慮がなされているようだ。
医療・教育職経験者	女性	30～39 歳	・鳥インフルエンザに関し、鳥から人へ伝染する可能性は(日本においては)ほとんどないと言っておきながら陽性の人がいたことに関し、調査報告や事実関係等の説明が明確になされていないように感じる。 ・情報隠しが実際あるから。 ・BSE (いわゆる狂牛病) について。
		40～49 歳	・科学的な知見に基づいているといえば最もしく聞こえて信じてしまう人も多いと思うが、BSE のリスク評価は科学的とはいえない。プリオン研究者にも色々な派閥があり、中立というなら両方の意見を聞くべき。異常プリオン蛋白が vCJD を発症する確率も潜伏期間もまだはっきりと解明されたとはいえない。必要以上に不安になる必要はないと PR するのも大切だが、まだ原因はわかっていても全てが解明されていないし、これからも状況に応じて対応が変化していくということを伝えるべき。
		60～69 歳	・BSE 問題で世論(国民の食の安全)より政府の意見である国益論に押されようとしている。科学が証明できないところはそれはそれで仕方ないので、食品安全委員会は独立機関だからもっと頑張っていたきたいです。(食品安全委員会の責任ではない。)今後も政府より国民の味方でいて欲しいです。

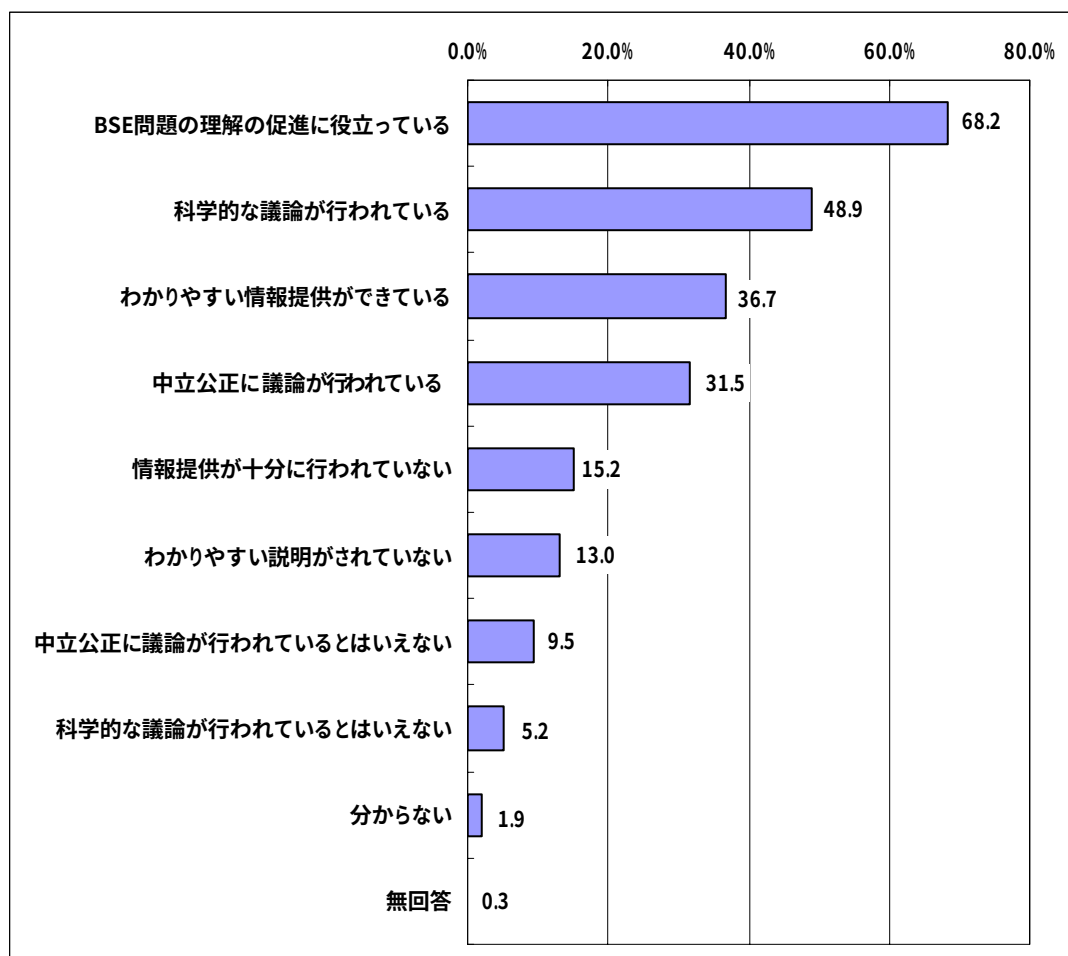
職務経験	性別	年齢	意見
その他消費者一般	男性	60～69 歳	・具体的な事例を挙げることは困難だが、例えば専門家以外にとって各種試験例にみられるような難解な試験用語、試験操作などは、非公開・非科学的・非公正という感じを抱く。
	女性	40～49 歳	・BSE 問題など、政治圧力を感じるから。 ・BSE 問題 (アメリカからの輸入牛肉) に関し、学問的な裏付けがどうであれ、未だに揉めているのがその証拠である。
		50～59 歳	・BSE の場合、異常プリオンが脳に蓄積するとの前提で検査や解体の基準が作成されているようだ。しかし先日のニュースでは、動物実験で内臓の部分にも見つかったとあった。科学の進歩であろうが、評価の仕方が政治的に急がれたように思われる。 ・BSE 問題に関しては、アメリカ産牛肉の輸入再開を進めるために全頭検査の見直しが出てきたように感じる。慎重であって欲しいと思う。 ・国民にさらなる不安を持たせないように、過激な内容を避けているように思われる。 ・20 ヶ月齢以下の牛肉は BSE 検査をしなくてもよいことになりましたが、21 ヶ月齢以下の牛肉は見た目で見えるものですか。仔牛肉として輸入される危険が心配です。やはり全頭検査にするべきだったと思います。
		60～69 歳	・20 ヶ月以内の牛肉の検査には「BSE が検出されなかったから検査の必要性がない」との見解は、科学的中立公正とはいえない。

6-1 BSE 問題に対する食品安全委員会のこれまでの取組

問9 食品安全委員会では、食品健康影響評価（リスク評価）を自らの判断で行う最初の案件として、我が国のBSE問題に取り組んできました。プリオン専門調査会で審議を重ね、平成16年9月には「中間とりまとめ」の公表を行いました。これを踏まえ、平成16年10月に、厚生労働省、農林水産省から、我が国のBSE対策の見直しについてリスク評価の要請（諮問）があり、現在その審議を進めています。

あなたは、BSE問題に対する委員会のこれまでの取組について、どのように思いますか。（複数回答可）

BSE 問題に対する食品安全委員会のこれまでの取組 n=368



6-2 改善すべきと考えられる点

問 10 【問9で「情報提供が十分に行われていない」(回答対象者数=56 人)、「わかりやすい説明がされていない」(同 48 人)、「中立公正に議論が行われているとはいえない」(同 35 人)または「科学的な議論が行われているとはいえない」(同 19 人)を選択した方のみ回答】

今後、改善すべきと考えられることがあれば、それぞれの項目ごとに、具体的に記入してください。(自由記述)

BSE 問題に対する食品安全委員会のこれまでの取組についての改善すべきと考えられる点

i 「情報提供が十分に行われていない」と選択した方 n=53

職務経歴	性別	年齢	意見
食品関係業務経験者	男性	40～49 歳	・新聞・マスコミ・テレビなどで情報が氾濫しているため、正確な情報が不明確。 ・科学的根拠をそのまま伝えるようなテレビ番組がないような気がします。
		50～59 歳	・20 ヶ月以下の牛は安全と誤解されて、輸入再開条件で飼育期間の証明が論点になってしまっている。また、それに対する委員会の反論が聞えてこない。 ・何故、米国では大きな課題になっていないのに、日本では全頭検査をするのか、その理由を明確にするべきだ。 ・米国との意見の違いが明らかになって以後の、論点整理が不十分。 ・米国における BSE 対策の内容説明が不十分に思える。
		60～69 歳	・科学的データ資料が不十分のまま検討している点であるが、政治、経済の圧力を感じる。 ・農林水産省と厚生労働省、食品安全委員会等のホームページを自ら見ようとする人は別として、その他一般の人、特に主婦関連団体・消費者団体の情報にのみ依存している人達に、公正な情報が届きにくいように思う。 ・生産者、消費者、行政の意見を明確にするとわかり易い。 ・消費者の関心が表面的で、BSE 問題の本質を捉えていない。フィーリングでの関心といえる。
	女性	30～39 歳	・マスコミや一般民間人の関心が低くなりつつある今も、行政より情報を何らかの形で発信しなければ、問題や議論への関心は低くなると思われる。もっとマスコミを利用すべきではないかと思う。 ・興味のある方ばかりがニュースや記事を読みますが、他の方にどう提供してあげればいいのか考えていない。 ・難しい言葉ばかりで理解しづらい。 ・いつも思うのですが、「お役所言葉」的で表現がわかりにくい。内容が頭に入り易い、易しい言葉を使って欲しい。(勉強不足と言われればそれまでですが、難しい言葉を使って煙に巻いているのかなど考える時もあります。) ・テレビニュースでは結果のみなので、一般にはわかりづらい。
		40～49 歳	・意識の高い消費者のみを対象とするのではなく、不特定多数の消費者向けの情報発信の必要性がある。 ・リスク評価をどういう人達にまで(一般の消費者にまで)知らせていくのかで情報提供の手段も変わってくると思う。一般消費者が現段階でリスク評価をもとに判断するには、情報提供する場面が少ない。 ・もっとメディアを使って、何回も情報提供して欲しい。 ・BSE 問題について、「人から人へ感染する(輸血を通して)」ことは食品安全委員会の管轄ではないとして十分な情報が出されていないこと。「もとは牛から」と考えると、BSE 問題を慎重に考えていかなくてはならないことも、その情報提供とともに理解されたいと思いました。
		50～59 歳	・アメリカからの圧力があるか心配です。BSE の取組については今までにない対応だと思います。科学的結果をアメリカに望みます。 ・議論に十分な時間、必要な情報、広い立場の専門家の参加を持たせる。 ・モニターや食に関心のある人への提供はある程度行われていますが、もっと広く知らせる努力(仕組み)が必要です。小・中・高校などの学校の活用はできないでしょうか。

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係研究職経験者	男性	40～49 歳	・BSE 対策は国産でも管理は難しい。輸入ではもっと難しい。 ・ホームページ以外での情報が少なく感じる。
		60～69 歳	・結果に至る議論の経過、各委員の意見を公開して透明化を図る。
		70 歳以上	・委員会からの情報の入手が難しく、マスコミの情報は信頼できない。
	女性	30～39 歳	・「生後何ヵ月の牛は安全」といえる科学的根拠が知られてない。
医療・教育職経験者	男性	60～69 歳	・全頭検査に反対する科学者の意見や原因説について、違う意見があること等々情報提供してもらいたい。
	女性	30～39 歳	・根拠を公表していないところ。 ・国民全体が安心するような情報提供が十分に行われていたとは思えないから、委員会とは関係ないかもしれないが、最近ニュースであまり聞かないので、いつのまにか国民の知らないところでアメリカ牛肉輸入再開が始まってしまったらしないだろうか心配です。 ・誰でもが様々な情報を得られる手段を見出すべきだ。
		40～49 歳	・マスメディアでの情報提供量が十分とは思えないし、もっと大きく取り扱ってもらって欲しい。
		50～59 歳	・脊椎の神経節の除去においては傷めないできちんと除去しなければならないなどの詳細な情報を望む。
その他消費者一般	男性	40～49 歳	・中間とりまとめにて「20 ヶ月齢以下の BSE 感染牛は確認されていない」という事実が、「全頭検査 (20 ヶ月齢以下の牛の検査) は必要ない」と一人歩きを始めたこと。
	女性	20～29 歳	・誤った情報が先に飛び回り (噂)、一般消費者が正しい情報を得られる機会が足りないと思う。ニュース・新聞だけでなく、コマーシャルでしつこい程流す等、受け身でも専門家以外の人が正しい知識を得られるようにして欲しい。 ・モニターにはわかって、一般消費者は情報を手にできることが限られている。
		30～39 歳	・地方での会議で事業者の出席が多く、消費者の声が反映しにくいと聞くことがある。 ・専門的なことが多く、一般の方に受け入れられにくいと思います。 ・一部の関心のある人にしか情報が届いていないと感じる。広く親しみ易く、積極的に働きかけるべき。 ・マスコミの偏った意見は排除して、正しいリスク評価が伝えられるべき。
		40～49 歳	・情報提供をわかり易くして欲しい。要点と詳細を使い分けるなどして、知りたい程度に応じた情報が欲しい。「食品安全」の部数をもっと増やしたらどうか。 ・モニターや自ら積極的に情報を求める人に対しては十分でわかり易い情報が手に入ると思うが、全国民に対しては行き届いているとはいえないと思う。 ・専門家集団のイメージを払拭し、委員会の取組やリスク評価を公表すべきだし、PR が足りない。 ・「BSE＝牛肉は全部だめ」というように皆未だに思っています。この誤解を何とか解かなくてはいけないと思います。 ・消費者にわかり易い内容で、情報をこまめに提供する方向。 ・テレビのコマーシャルなどで、もっとわかり易い説明で PR すべきだと思います。 ・一般市民の間で食品安全委員会の存在を十分に認知されていない。広報、PR がまだまだ足りない。
		50～59 歳	・21 ヶ月の牛が BSE 発生したことに対し、その不安を解消してくれるに十分な説明、科学的根拠がない。 ・牛肉の脳や目など危険部位をほとんど食べない日本人にとって、リスクは非常に低い不安を感じる人は多く、それが買い控えにつながっている。 ・輸入を急ぐあまり、不利な情報を出していないのではないかという気がする。 ・広報誌等で委員会のことをもっと PR した方が良いと思う。
		60～69 歳	・意見交換会を全国で 11 月～12 月にかけて行いましたが、発表が遅く、関西にいる友人に託したが、皆予定が入っていた。もっと早い情報を希望します。 ・ホームページでは提供されているが、大切なことは新聞等でシリーズで紹介するなど、一般にもわかるようにして欲しい。

ii 「わかりやすい説明がされていない」と選択した方 n=42

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務経験者	男性	40～49 歳	・官公庁だけでなく、流通業やマスコミを通じた情報発信により、よりわかり易くする努力が必要。
		50～59 歳	・なぜ全頭検査が必要かの説明はないのか。
	女性	20～29 歳	・難しい言葉や曖昧な表現がよくみられ、意味がわからない。
		30～39 歳	・いつも思うのですが、「お役所言葉」的で表現がわかりにくい。内容が頭に入り易い、易しい言葉を使って欲しい。(勉強不足と言われればそれまでですが、難しい言葉を使って煙に巻いているのかなと考える時もあります。)・リスク評価結果をわかり易く教えようとするだけでなく、リスク管理方法を伝えることに力を入れるべき。どんなリスクがあるかだけでも安心しない。どう管理していくかを聞きたい。厚生労働省・農林水産省の方はリスクコミュニケーションでの発言をもっとすべき。 ・田舎の方に行く「BSE 問題以降、未だに牛肉は食べられない」というお年寄の声も聞くため。 ・BSE について一般にも理解できる説明が欲しい。
		40～49 歳	・「情報提供が十分に行われていない」に関連して、一般消費者にまで理解させるとなると科学的説明や数値の提供を理解させるのは難しいと思う。科学的数値という目に見えないものが対象(菌であるなど)になるので、丁寧にわかり易い表記もあわせて情報提供していかないと、例えば鳥インフルエンザの時の「気持ち悪いから何も食べない」という生理的嫌悪の感覚に繋がると思う。 ・話し言葉のように平易な表現でわかり易くお願いしたい。 ・まだ推測のところがあるので、不安と理解できないところがあります。
		50～59 歳	・資料や図・表などを使用されていて、方法は良いのですが、「説明文」・「用語」が難解なところが多かった。 ・決定経過が強引にみえる。
食品関係研究職経験者	男性	40～49 歳	・抜き打ちの DNA 鑑定にも限界があり、消費者は業界の良心を信じる以外にない。 ・リスクコミュニケーターが(個人だけでなく組織としても)、消費者、及び集団心理の科学を理解し、受け止めた内容が正しく受け止められるように改善するべき。 ・一定の知識を持っていないと理解できない。
		60～69 歳	・一般消費者まで PR が行き届く施策が必要。 ・リスクコミュニケーションの結論が不透明でわかりにくい。
		70 歳以上	・どうして難しいことを易しい言葉で示すことができないのか。
	女性	50～59 歳	・現在の BSE 検査で可能な範囲やその正確さ、現在の BSE 検査でカバーできない精度面やリスクを、できるだけ詳しくわかり易く知らせるべきである。 ・国民全体がわかるような環境、提示方法がなされていないように思う。 ・本当に安心であるという説明がされるよう、もっと努力して欲しいと思います。
医療・教育職経験者	男性	50～59 歳	・季刊誌「食品安全」は一般消費者向けなのか、業界関係者向けなのかです。一般向けなら問題意識がなければ「リスク評価」という言葉自体受け入れられないのではないかと思います。
	女性	30～39 歳	・専門家が議論しているのだから素人は黙っているという態度。
		40～49 歳	・やはり文章や表現がまだ難しいし、文章は短く簡潔な方が理解が深まるように感じた。
その他消費者一般	男性	40～49 歳	・やはり言葉が難しい。
	女性	20～29 歳	・専門家や食品業界で、この問題はこうなっているのだらうと思う。時間がかかり過ぎている。スピードも大切だと思う。 ・消費者には文字のみの書類ではわかりづらい。科学的な議論をどうわかり易くしていくのが課題だと思う。

職務経験	性別	年齢	意見
その他消費者一般	女性	30～39 歳	・専門的なことが多く、一般の方に受け入れられにくいと思います。 ・国民に理解が得られない。「誰にでもわかる」説明でなければいけない。 ・新聞等の報告では、経過に関する詳しい内容や今後の動向など具体的な報告がなされていないから。
		40～49 歳	・情報提供をわかり易くして欲しい。要点と詳細を使い分けるなどして、知りたい程度に応じた情報が欲しい。「食品安全」の部数をもっと増やしたらどうか。 ・一般消費者に対して委員会を通してメディアから報告をすれば、もっと理解と信頼を示してくれると思う。 ・専門用語等が多くなるのはどうしても仕方のないことだが、中学生にもわかるような表現を心がければかなり一般にわかり易い表現になるのではないか。 ・専門用語を多用せず、一般の市民が理解し易い言葉で説明すべきだと思う。 ・委員長が自らメディアなど利用してわかり易い説明をすべきと考える。 ・「BSE＝牛肉は全部だめ」というように皆未だに思っています。この誤解を何とか解かなくはいけないと思います。 ・消費者にわかり易い内容で、情報をこまめに提供する方向。 ・テレビのコマーシャルなどで、もっとわかり易い説明で PR すべきだと思います。 ・専門用語が多く、新聞記事などを読んでもわかりにくい。
		50～59 歳	・「食の安全」に重きを置いた料理教室を主宰しているが、説明がわかりにくいと思う。（人に教えるにくい。） ・科学的根拠、データー等に理解しにくいところもあった。
		60～69 歳	・一般消費者、主婦にはもう少し簡単な説明が良いと思います。

iii 「中立公正に議論が行われているとはいえない」と選択した方 n=30

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務経験者	男性	30～39 歳	・日本国内の世論に振り回されている気がします。脳や脊髄が危険で、あとは大丈夫と言いながらも、海外では病気を持った牛の内臓も危険と言われています。
		50～59 歳	・審議の裏に「日米摩擦」に対する政府への配慮が感じられる。
		60～69 歳	・議論前から議員に対して他国からの圧力のようなものを感じたが、その方向で最終的まとめとなっているようだ。正しい判断とは言い難い。
		70 歳以上	・上滑りの感あり。
	女性	30～39 歳	・どうしても政治的圧力に負けているとしか思えない。私は BSE についてはまだ多くの不安があるため、輸入再開には YES と言えない。
		40～49 歳	・政治的介入が存在すること。 ・行政の立場からの見解が強いように感じます。
		50～59 歳	・議論に十分な時間、必要な情報、広い立場の専門家の参加を持たせる。 ・アメリカ産牛肉の輸入再開と関連づけて報道されることが多いせいか、先に輸入再開という政治的結論があるかのような印象を受ける。 ・省の傘下ではなく、名実共に完全に「食品安全委員会」が独立した機関であることを望みます。
食品関係研究職経験者	男性	70 歳以上	・政治的発言、政治家の発言しか耳に入っていない。
	女性	50～59 歳	・政治的駆け引きが行われているように思える。もっと中立的立場の人も入れるべきである。
医療・教育職経験者	男性	60～69 歳	・プリオン専門調査会で意見が分かれているのであれば、見直しをすべきではないと思う。質問があり、違う意見の専門家がいると説明していた。
	女性	30～39 歳	・BSE 検査は地方では見逃されているように思う。
		40～49 歳	・BSE など、アメリカの育て方と日本の育て方は国土面などにより根本的に違うのに、一緒に土台でなければと合わせ過ぎていると感じた。アメリカの大雑把な検査はそれなりの情報公開として、日本に入ってからからの検査にしないと堂々巡りで時間がもったいない気がしました。 ・アメリカ産牛肉輸入再開のための食品安全委員会の中間報告は本当に中立か。業者やアメリカ有利の甘い報告にならないよう、食する立場の身になった報告を期待します。
		50～59 歳	・米国の牛肉輸入という圧力が日本の全頭検査を断念させたような気がしているのは私だけでしょうか。 ・米国が政治的要因(政治的)外圧によって我国への輸出再開を望むこと。
		60～69 歳	・米産牛肉の輸入(一部)に踏み切らざるを得ない状況に現在なっていること。
その他消費者一般	女性	30～39 歳	・輸入を推進する議員の圧力に屈せず、我々消費者が納得できるよう、徹底的に検査、追跡調査をして欲しい。 ・国民の声が反映されていない。妥協案を考え、国民と歩み寄らなければ公正でないと感じる。
		40～49 歳	・どう表現してよいのかわからないが、ある時期から突然 BSE に関する意見交換会や新聞の意見広告、NHK のニュースが増えてきました。漠然と「ああ、アメリカ牛を輸入したいんだな。外食産業の台所事情が厳しいのかな。」と思えました。「輸入したい、させてくれ。」という雰囲気が伝わってくる中、自分も牛丼はやっぱりアメリカ牛かなと思ってしまいます。明らかにある意志があって、そろそろ BSE の指針も出てきたところに、アメリカ牛の輸入再開。どうせ輸入するなら、日本人は変なところに潔癖症があるから、上手にやってください。 ・時期的に外交問題との絡みを疑う。時期をずらして(もっと早くから)行うべき。 ・立場が国の方に偏っているのではないかという思いがします。(国にメリットがあるような動きを感じます。)

職務経験	性別	年齢	意見
その他消費者一般	女性	50～59 歳	・米国産牛肉の輸入再開を前提にして議論が行われている感じを受けた。 ・アメリカからの輸入再開要請に添う形で進められている感じである。 ・消費者はアメリカ産牛肉の輸入再開のために全頭検査の見直しが進められているように受け止めている。 ・BSE 全頭検査については政治的圧力が背景にあると懸念し、国民からみると中立公正度がわかりにくい。
		60～69 歳	・外国政府より圧力をかけられているように思う。(国産品より買わないからよいけど)。
		70 歳以上	・政治的圧力を感じる。

iv 「科学的な議論が行われているとはいえない」と選択した方 n=18

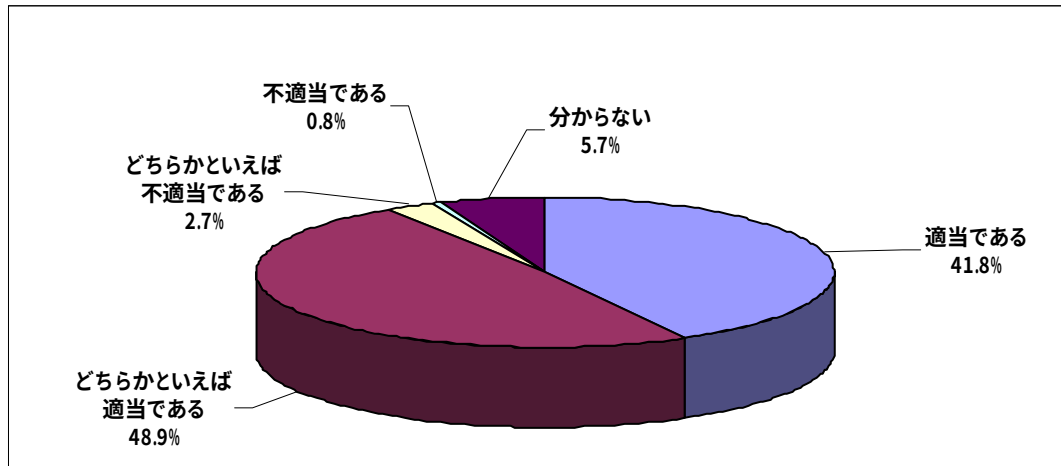
職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務経験者	男性	60～69 歳	・科学的データ資料が不十分のまま検討している点。 ・科学的な議論が行われていると思うが、公表された結論に歪みがあるのではないかと。 ・例えば、BSE フリーの牛齢についても 20 ヶ月以下、20 ヶ月・・・など、どうも科学的な根拠の公表が不十分で、消費者の立場からは科学的とは思えない。 ・①日本での発生原因物質（人工乳、飼料等）が究明されていない。 ②若年齢牛は安全なのか。プリオンの発生までのメカニズム、前駆物質等の研究が必要。
		30～39 歳	・やっぱりアメリカ産牛肉の輸入再開の方に動いているから。
	女性	40～49 歳	・「特定危険部位さえ除去すれば安全だ」という決め付けを全月齢にわたって（食品安全モニター会議において）言い切られたこと。異常プリオンは血液を通して循環し、牛から人、人から人へと広がることをもっと慎重に考える必要があると思います。
		50～59 歳	・議論に十分な時間、必要な情報、広い立場の専門家の参加を持たせる。 ・そもそも既知のデータのみで論議を行い、その範囲で議論を出すことが科学的ではないように思います。不十分なデータについて新しい知見を得るための実験をすることも考えて欲しい。
食品関係研究職経験者	男性	60～69 歳	・プリオンの未解明事項についての対策が不十分。
		70 歳以上	・何故、BSE が発生するか基礎研究に力を入れるべきで、対策はそのあとで行うべきだ。
	女性	50～59 歳	・生後何ヶ月以上とか以下で安全性が分けられるのはおかしいと思います。
医療・教育職経験者	女性	30～39 歳	・BSE 検査が曖昧である。
		50～59 歳	・除去部位の回腸について、日・米の食文化の違いがあるためか、米国においては結腸全除去であるのに対し、我国は回腸遠位部を除去することに止めている理由を、きちんと科学的根拠のもとに明かして欲しい。
		60～69 歳	・科学的にどうしても解明されない（黒かもしれない＝科学がもっと発展すれば・・・）部分を、状況証明できないとして「白」とも、または「灰色」としていること。
その他消費者一般	女性	50～59 歳	・21 ヶ月で BSE が発生しているのに、検査不可能だからという名目で 20 ヶ月以下は対象外とすることに疑問がある。20 ヶ月以下は安全という証明を示して欲しい。 ・20 ヶ月齢以下の牛肉には異常プリオンがないということが科学的に本当に正しいのかが疑問です。（やはり全頭検査をしてください。）
		60～69 歳	・データが出ないから安全とされるが、19 ヶ月 29 日の牛でも安心といえるのかどうか疑問がある。科学的議論をもっとすべきだと思う。
		70 歳以上	・国内産牛肉については、トレーサビリティ法第一食品として安心していたのに、輸入（アメリカ産）牛肉の科学的議論が伝わってこない。

7-1 リスク評価を食品安全委員会自らの判断で行う案件の選定方法等

問 11 食品安全委員会では、食品健康影響評価(リスク評価)を自らの判断で行う案件について点検を行った結果、平成16年12月に、その対象案件として「食中毒原因微生物の評価」を選定しました。

あなたは、この対象案件の選定の方法や過程について、どのように思いますか。(1つ選択)

リスク評価を食品安全委員会自らの判断で行う案件の選定方法等 n=368



7-2 改善すべきと考えられる点

問 12 【問 11 で「どちらかといえば不適當である」または「不適當である」を選択した方のみ回答 (回答対象者数＝13 人)】 今後、改善すべきと考えられることがあれば、具体的に記入してください。(自由記述)

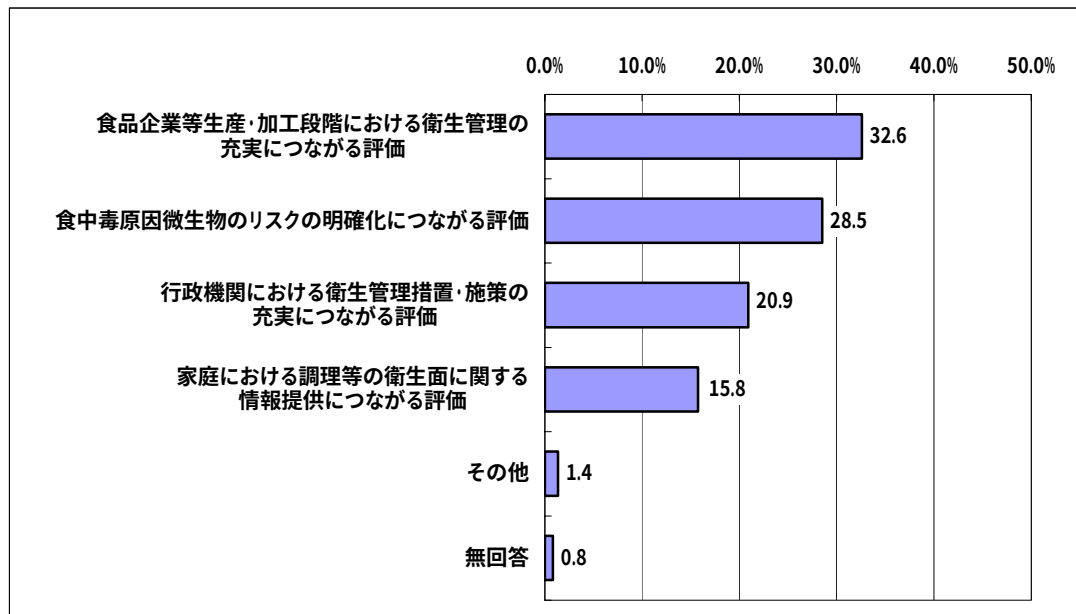
リスク評価を食品安全委員会自らの判断で行う案件の選定方法等の改善すべきと考えられる点 n=13

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務経験者	男性	40～49 歳	・今後承認が予定されている抗菌剤にリステリアに有効なものがあり、その抗菌剤を認めるための理由付けのために選定している。本末転倒で恣意的である。
		50～59 歳	・"一般の人が食品健康影響評価で一番関心があるのは、妊婦のアルコール飲料の摂取のことではないでしょうか。 リステリアを含む食品も大事な内容ですが、一般の人には関心が持てる内容でしょうか。" ・食品の安全に関与する物質は多義に渡っており、総合的に判断し選定すべき時期にきている。食品添加物を例にしても、アカネ色素は評価されてわかったわけで、安全性試験が実施されていない既存添加物がたくさん存在する。
		70 歳以上	・食中毒微生物に特定せず、食品安全の問題点を幅広く取り上げて欲しい。 ・突然問題提起がなされた。
	女性	40～49 歳	・食品安全委員会の判断により行う食品健康影響評価は、民間に委ねる方が信頼性がある。 ・結果的には確かに食中毒も健康被害を起こすわけだが、衛生管理上の問題で発生する事故であり、食品衛生法等で検討すべきではないか。
医療・教育職経験者	男性	70 歳以上	・食中毒原因微生物の評価も大切と思うが、企業により次々に開発される食品添加物のリスク評価の方がより重要ではなからうか。 ・まだ十分評価が定まっていない点(データも含めて)が多いのではないかという懸念がある。即ち、もっと研究を続けた上で発信しないといけないと思う。このままの記述ではなく、大いにわかり易く、確実性の高いものを国民に示さなければならないと考える。
	女性	30～39 歳	・神経質になり過ぎるのではないか。
その他消費者一般	女性	40～49 歳	・自らの判断とか委員の公募とかの基準がわからない。 ・「情報の収集・整理」の中に海外の情報も入れるべき。
		50～59 歳	・もっと緊急で必要とされる課題があるのではないか。

8 「食中毒原因微生物の評価」に期待する評価の方向性

問 13 食品安全委員会が、食品健康影響評価(リスク評価)を自らの判断で行うこととした案件「食中毒原因微生物の評価」について、あなたは、この評価がどのような安全性の確保につながることに期待しますか。(1つ選択)

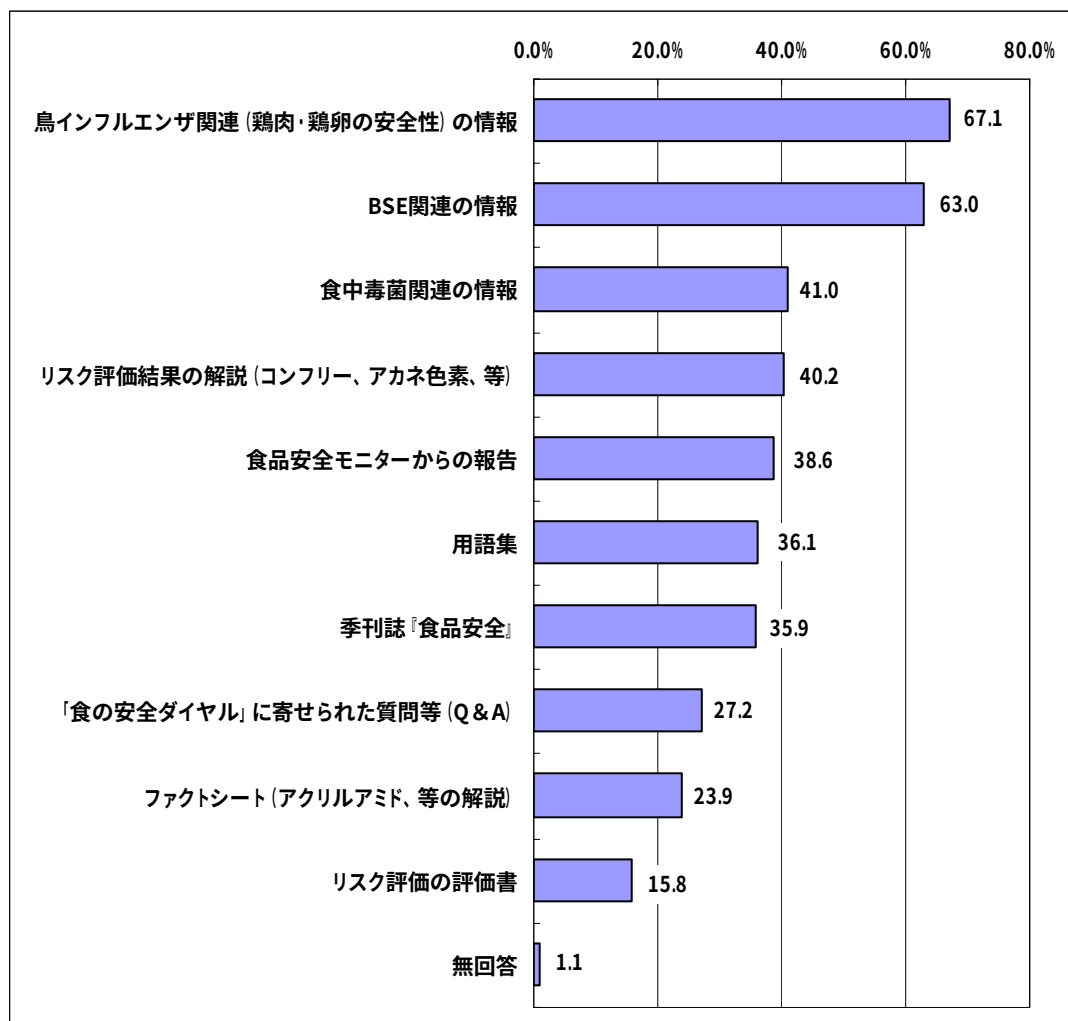
「食中毒原因微生物の評価」に期待する評価の方向性 n=368



9 食品安全委員会が提供する、参考になった食品の安全性に係る情報

問 14 食品安全委員会では、ホームページなどを通じて、食品健康影響評価（リスク評価）の結果をはじめとして、食品の安全性に係る情報の提供に取り組んでいます。参考になったものは何ですか。（複数回答可）

食品安全委員会が提供する、参考になった食品の安全性に係る情報 n=368



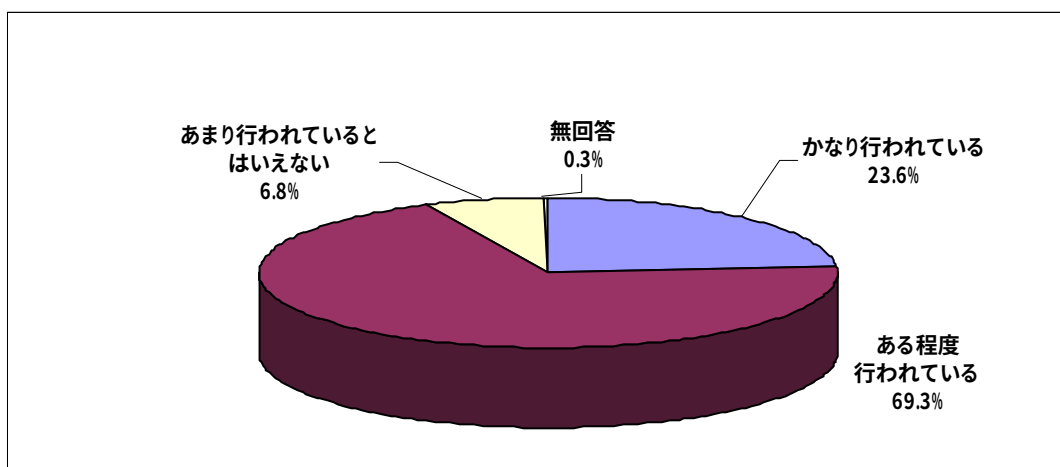
第3 食品安全委員会の取り組むリスクコミュニケーションについて

10 リスクコミュニケーションへの食品安全委員会の取組

問15 食品安全委員会では、食品健康影響評価（リスク評価）の内容などについて、様々な手段を用いて、消費者をはじめとする関係者との間で情報や意見の交換を図るリスクコミュニケーションに取り組んでいます。

食品安全委員会のリスクコミュニケーションの取組について、あなたはどのように評価していますか。（1つ選択）

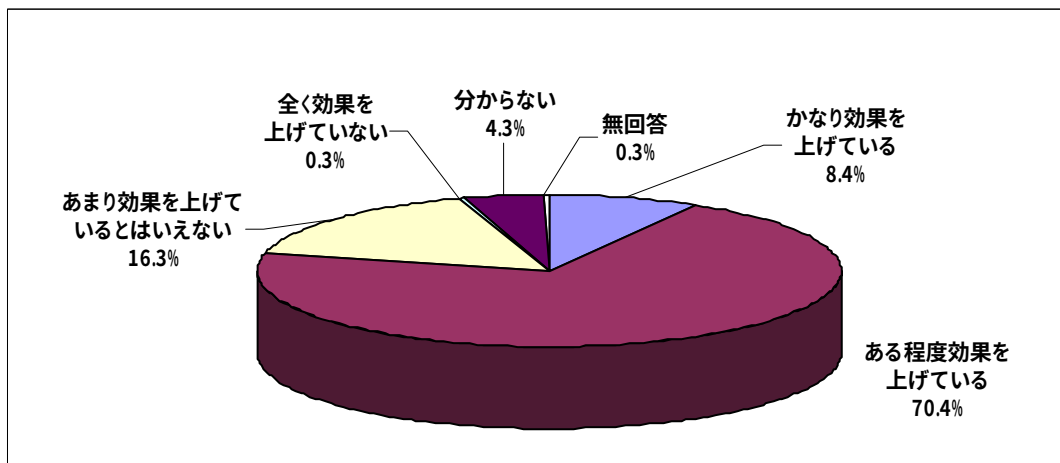
リスクコミュニケーションへの食品安全委員会の取組 n=368



11 情報共有・相互理解の促進という観点からのリスクコミュニケーションの効果

問16 これまで食品安全委員会が取り組んできたリスクコミュニケーションは、情報の共有や関係者の相互理解の促進という観点から、どの程度の効果を上げていると思いますか。（1つ選択）

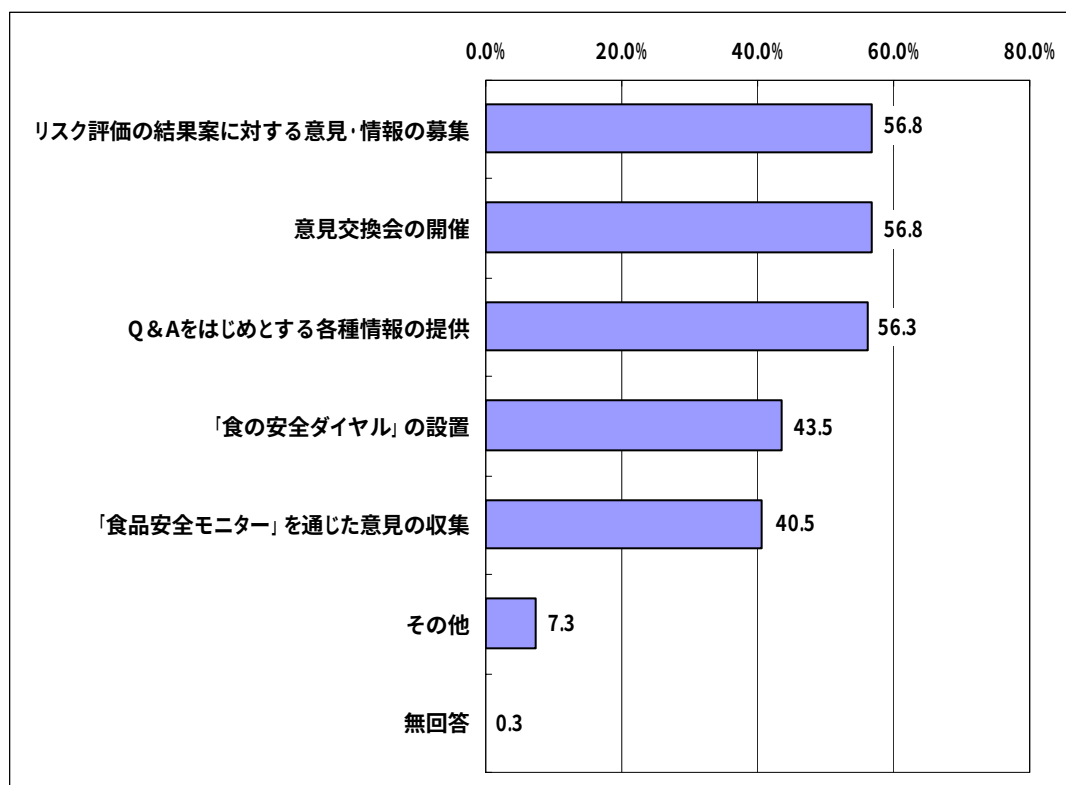
情報共有・相互理解の促進という観点からのリスクコミュニケーションの効果 n=368



1 2 情報共有・相互理解の促進を図る上で重要と考える取組

問 17 情報の共有や関係者の相互理解の促進を図っていく上で、次にあげるリスクコミュニケーションの取組の中から、特にあなたが重要と考えるものを選んでください。(3つ以内の選択)

情報共有・相互理解の促進を図る上で重要と考える取組 n=368

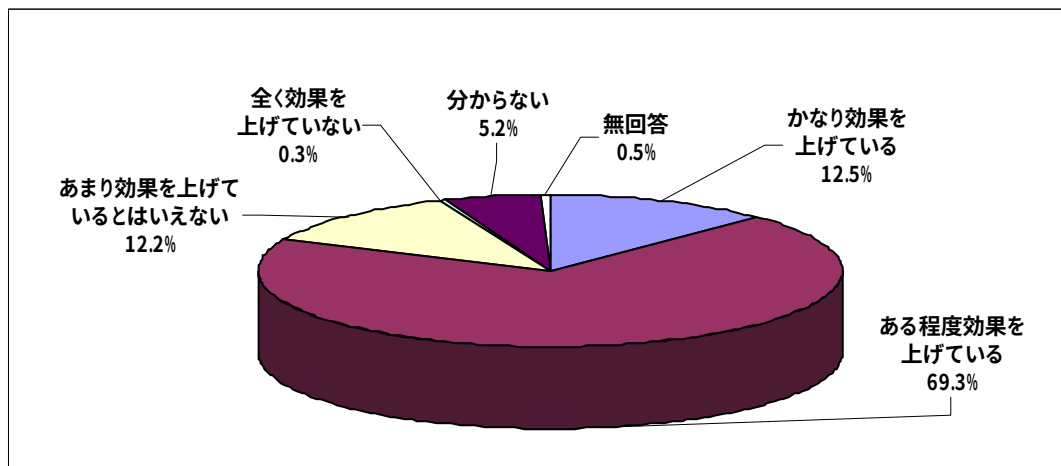


13-1 BSE 対策についての意見交換会開催の効果

問 18 食品安全委員会では、日本における牛海綿状脳症 (BSE) 対策について、委員会やプリオン専門調査会の審議などについてのリスクコミュニケーションを推進するため、昨年来、意見交換会を全国各地において開催してきました。

あなたは、このような全国各地における意見交換会の開催は、情報の共有や関係者の相互理解の促進といった観点から、どの程度の効果を上げていると思いますか。(1つ選択)

BSE 対策についての意見交換会開催の効果 n=368



13-2 改善すべきと考えられる点

問 19 【問 18 で「あまり効果を上げているとはいえない」または「全く効果を上げていない」を選択した方のみ回答（回答対象者数＝46 人）】 今後改善すべきと考えられることがあれば、具体的に記入してください。（自由記述）

意見交換会の開催について、改善すべきと考えられる点 n=40

職務経験	性別	年齢	意見
食品関係業務経験者	男性	40～49 歳	・公表方法の改善。 ・マスコミ報道自体がリスク分析の理解ができておらず、広報対応が重要。
		50～59 歳	・結果ありきの形式的な意見交換会に感じた。 ・福岡市における意見交換会に出席して実感したのは、あまりにも一般市民の参加が少なかったことである。月曜日の 10 時開始では専門関係者以外の参加は無理というもの。一般人の参加し易い日・時の設定が望まれる。
		60～69 歳	・BSE 発生時のパニック的インパクトを受けた消費者及び関係者に対し、委員会中間報告は結論として受け止められるものであった。結論ありきの誘導と焦り過ぎた感がある。このため委員会の科学的検討結果は減殺されて受け取られ、政策的誘導策の疑念さえ与えてしまったのではないか。消費者が真に求めているものは食品安全委員会に対する信頼と安心である。 ・保健所等を通して説明会を開催する。カタカナ語が多過ぎる。東京を中心と考え、「わかっているだろう」が多い。
		70 歳以上	・交換会に出席したが、消費者にどう理解させるかの取組が難しい。 ・参加者の質。 ・日本の見解と米国の見解の差。
	女性	30～39 歳	・アメリカの牛の月齢もはっきりさせる方法がないのに、何故、輸入再開のようなことが言われるのか。 ・3日後の意見交換会の DM をもらってもすぐに休めないし困る。もっとゆとりをもって行って欲しい。
		40～49 歳	・誰にでもわかり易くという視点での意見交換会とするならば幅広く意見が出るのは当然だが、一度見た限りだが効果的な交換会とはいえないと思う。消費者側が輸入政策についてまで言及していたが、リスクコミュニケーションとしての意見交換会とは視点がどこにあるかを知らせていかないと、多くの学者を集めた調査委員会の使命とずれた観点での意見交換となってしまうのもったいないと思う。リスク評価とそれを受けての各省での取組、消費者の賢い選択へと明確に流れていく整理の方法が相互理解を高める一つの手段であると思う。 ・PR 不足である。お金も時間もかけて開催されている割に、事前の告知もごく限られた場所と期間であり、さらに開催されたことが新聞やテレビ等マスコミを通じて県民(国民)に報告されなかった。これは報道各社を呼ばなかった開催者のミス。 ・意見交換会に参加した方々には浸透していると思います。しかし一般社会に伝わっているかという点はまだではないでしょうか。 ・意識の高い人へのみの情報提供を考えるのではなく、不特定の消費者向けに繰り返し情報を提供することが大切ではないか。⇒もっと認知度を上げ、活動の存在感を高める。 ・食品安全委員会が 20 ヶ月齢以下牛を「リスクわずか」と評価したのに、日本国内全頭検査など、コミュニケーション効果があるとはいえない。食品安全委員会の信頼度を疑われているのかとも思えてしまう。
		50～59 歳	・たくさんの資料と説明は専門用語等理解しにくかった。 ・意見交換の時間が少なく、また同じ組織団体の人が多く発見された。 ・当日出席できなかったため 3 社の新聞を毎日見えていたが、どの社の記事にも書かれてなく、本県ではあまり関心がなかったのかと残念でした。地元の農業新聞の記事にもなっていませんでした。 ・限られた時間の中では、議論をかみ合わせるのが難しい。意見募集、議長と事務局の十分な準備と適切な進行。

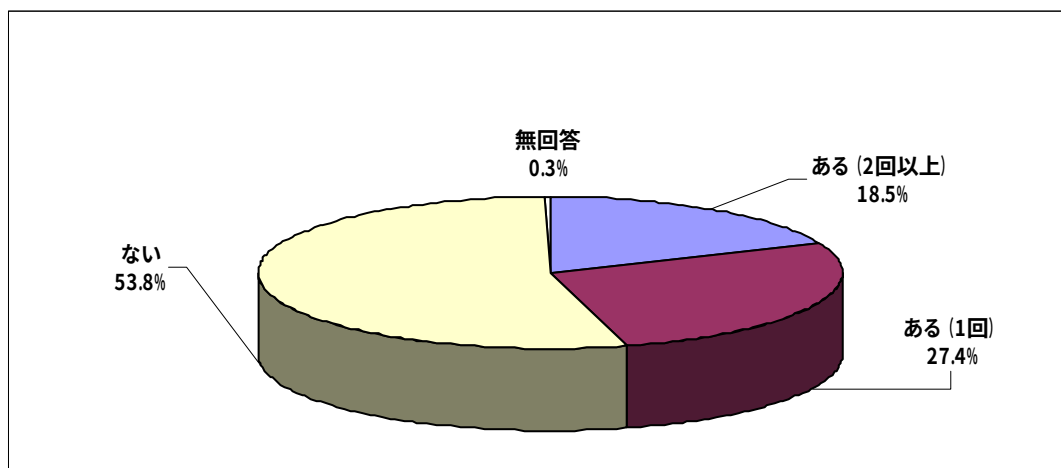
職務経験	性別	年齢	意見
食品関係研究職経験者	男性	30～39 歳	・リスクの概念を正しく伝えることができていないように感じる。ただし、どちらかといえば感情論に走る消費者に対し、どう説明すればわかってもらえるのか私もわからない。学生に対して説明を試みても、頭ではわかるが現実的に不安が残るなら避けるべきだとの意見が多く、リスクコミュニケーションの難しさを感じる。
		40～49 歳	・大変な努力にまず敬意を表します。改善点は 3 点。①マスメディアの利用。(例:意見交換会の無編集でのテレビ放映。教育テレビなど。)②リスクコミュニケーションの養成。③集団思考の科学(同調行動、少数者の影響など)について、参加者が考える(紹介する)時間を設ける。
		50～59 歳	・関心の低い人が多いので、地方公共団体の広報誌に連載する。
		60～69 歳	・継続フォロー体制が不足。 ・結論ありきの感が拭いきれず、フラストレーションを抱いたまま終る参加者が多い。出口調査的手法で意見集約を図ってはどうか。
		70 歳以上	・どのような効果があったかと質問するようでは情けない。開催各地で手ごたえを感じているはず。それをまとめて公表することこそ必要。開催してどうだったと質問したい。
	女性	40～49 歳	・参加する人が限られている。一般の人に広く参加してもらえるようにする。 ・意見交換がなされても、BSE の関連で中止していたアメリカ牛肉の制限付き輸入再開は進行し、牛のタグも取り替えられるともう追跡が不可である。牛肉の安全にも 100%はないと思いながら、どこか納得していないものがあり、それを甘受するか、一切食べないの方策しかないことが、仕方ないながら不安なため。
		50～59 歳	・場所、回数共にもう少し幅を広げ、たくさんの人が参加できるよう工夫して欲しいと思います。
医療・教育職経験者	男性	70 歳以上	・意見交換会の開催は良いと思うが、要はその持ち方である。意見を出し易い環境づくりをするべきではないか。
	女性	30～39 歳	・情報提供が曖昧である。もっと説明を提供し国民に浸透するようにしてください。
		50～59 歳	・開催日時や場所の設定が参加しにくい状況です。
その他消費者一般	女性	20～29 歳	・開催日を休日など参加し易い日時で行うべきである。意見交換会があることをもっと公告すべきである。 ・一部の人達でのみのリスクコミュニケーションになっている感じがする。日本中のあらゆる人に情報伝達が行われているとはまだいえないと思う。
		30～39 歳	・意見交換会といっても、関心を持っている人や食の関係者ぐらいしか広がっていないと思うので。 ・もっと世間に宣伝した方が良いと思う。
		40～49 歳	・情報の共有・理解の点では効果があると思いますが、交換会の参加者が同じ顔ぶれに思います。枠を広げ、色々な層に情報を提供できたら良いと思います。 ・一般消費者がもっと意見交換会に出席してくれるようなシステム作り、PR を希望します。 ・回数が少なく、時間も限られているので十分でないと思う。 ・「BSE＝牛肉全部だめ」と思っている人がかなりいます。小学・中学・高校・婦人会などでの教育説明も必要かと思っています。
		50～59 歳	・一方通行の質問、答えではなく、もっと時間をかけて討論方式で行えば、相互理解も深まるのではないかと思います。
		60～69 歳	・開催日等の情報を地方の広報、新聞等を使って前もって知らせたい。お忙しい中先生方に来ていただくので、広い会場を使って多数の人達に参加して欲しいと思いました。(横浜の会場に参加して。)

1 4 - 1 食品安全委員会が主催する意見交換会への参加の有無

問 20 食品安全委員会では、厚生労働省や農林水産省、地方自治体とも連携し、BSEをはじめとする国民の関心の高いテーマやリスク分析の考え方などについて、意見交換会をこれまで全国各地で開催してきました。

あなたは、食品安全委員会が主催するこれらの意見交換会に参加したことがありますか。(ただし、食品安全モニター会議への出席は除きます。)(1つ選択)

食品安全委員会が主催する意見交換会への参加の有無 n=368

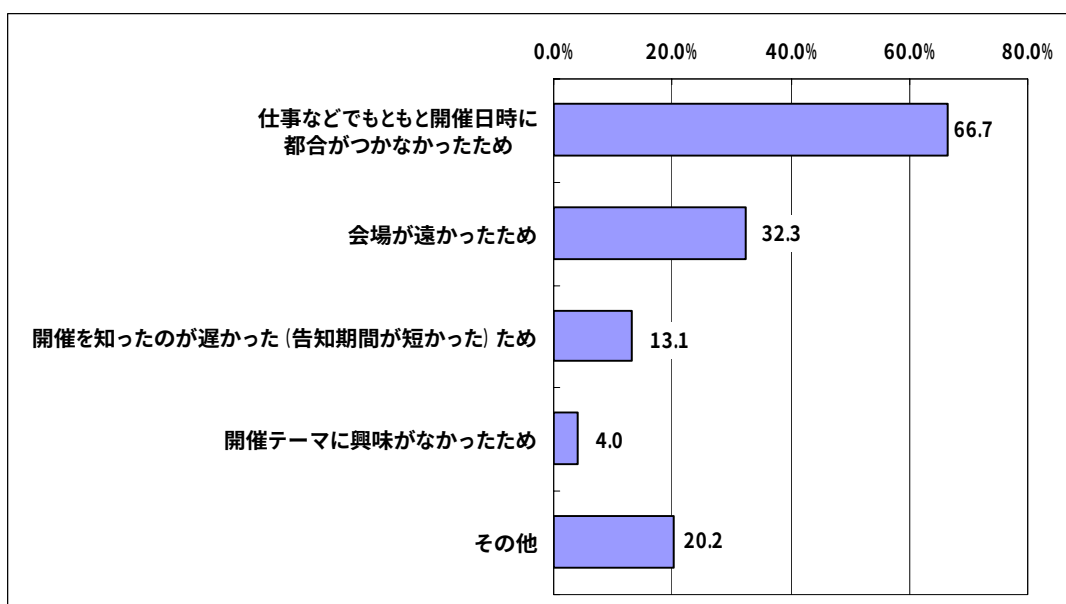


1 4 - 2 意見交換会に出席しなかった(出席できなかった)理由

問 21 【問 20 で「ない」を選択した方のみ回答(回答対象者数=198 人)】

あなたがお住まいの地域(都道府県)で開催された意見交換会に出席しなかった(出席できなかった)理由について、選んでください。(複数回答可)

意見交換会に出席しなかった(出席できなかった)理由 n=198



1 4－3 意見交換会への参加による理解度の変化

問 22 【問 20 で「ある（2回以上）」又は「ある（1回）」を選択した方のみ回答（回答対象者数＝169 人）】

参加された意見交換会のテーマについて、あなたは、意見交換会に参加することによって理解が深まりましたか。（1つ選択）

意見交換会への参加による理解度の変化 n=169

